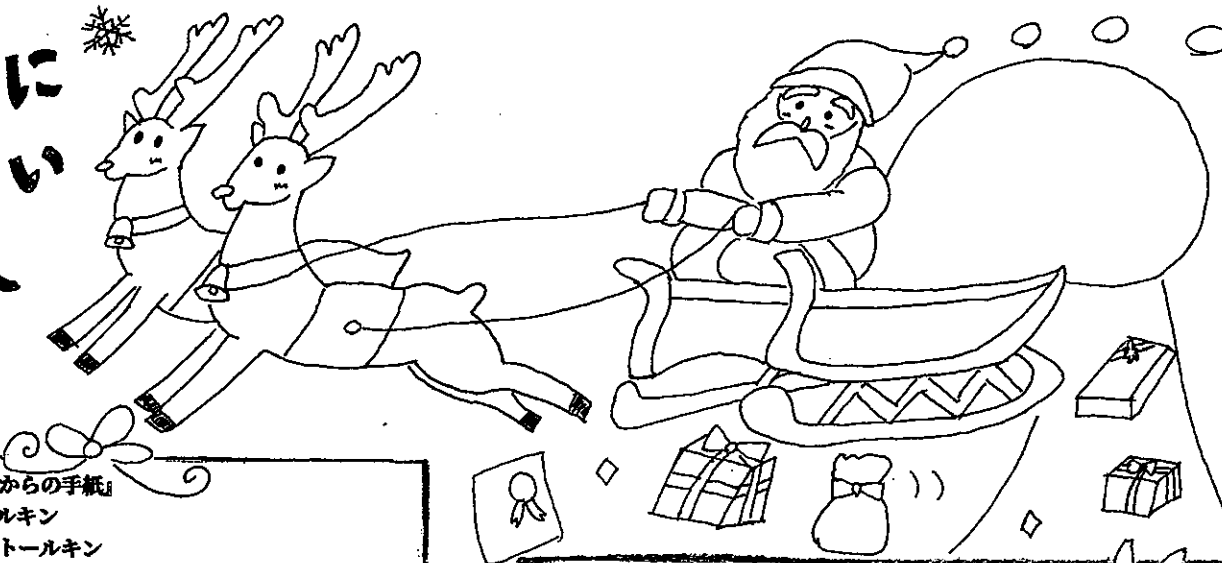


クリスマスに 読みたい 絵本



「サンタ・クロースからの手紙」
 著：J.R.R.トールキン
 編：ベイリー・トールキン
 訳：せたていじ

この絵本は、サンタクロース目線で書かれたお話で、皆さんの考えてもいなかった世界が目飛び込んできます！1ページごとに1年ずつ話が進んでいくので、ページをめくるたびにドキドキします！！冬にぴったりの絵本なので、ぜひ読んでみて下さい！！

78期 N.T

「てぶくろ ウクライナ民話」
 絵：エウゲーニー・M・ラチョフ
 訳：内田真紗子

雪の降る森の中、落とし物の手袋の中に動物たちがやってきます。初めはネズミ、次はカエル。「わたしもいれて」「ぼくもいれて」と動物たちは次々とやってきて仲間に入り、手袋は今にもはじけそう。さらに手袋を落としたことに気がついたおじいさんまで戻ってきて…。仲間が増えるたびに梯子や窓が付き、家ようになっていく手袋。そしてさらにやってくる動物たち。シンプルですが、読んでいくうちに引き込まれていく物語です。

75期 Y.A

※この本は本校図書館にありません。

「ひとりぼっちのミャークリスマスよるに」
 = THE LONELY MYAA ON CHRISTMAS EVE
 絵・文：たしろちさと
 訳：ピーター・ミルワード

あるところにひとりぼっちの猫、ミャーがいました。明日はクリスマスですが、ミャーには一緒に祝う家族もごちそうもありません。一人寂しく歩いていたミャーが、涙をこぼしたとき、運命を変える出会いが訪れました。それは一体どんな出会いだったのでしょうか。果たしてミャーは幸せなクリスマスを過ごせたのでしょうか。家やお店の挿絵が温かい色調で描かれているので、読んでいて幸せな気持ちになれます。

77期 M.T

「クリスマス・イブ」
 絵：ベニ・モントレソール
 文：マーガレット・ワイズ・ブラウン
 訳：やがわすこ

4人の子どもたちがクリスマス・イブの夜にベッドを飛び出して、クリスマス・ツリーをお願いをしに行く物語。全部のページの背景がオレンジ色になっていて、赤や黄色の装飾がととも映えます。子どもたちが両親に気づかれないようこそこそと移動している様子や、子どもたちと一緒に歩いている黒い子猫がとても可愛いです！！

74期 M.M

「クリスマスの鐘」
 絵：藤城清治
 文：レイモンド・M・オールデン

ある町の教会のてっぺんに、世界一美しい音色を持つと噂される鐘があった。この鐘は、教会に素晴らしい贈り物が捧げられたとき、透き通るような音色を奏でるらしい。しかし、長い間この鐘は音を奏でていない。今年こそはこの鐘の音を聴きたいと意気込む大人たちに紛れて、貧しい村に住む小さな兄弟がクリスマスのお祝いのためにこの教会へ向かっていて…。果たして、この鐘が響きわたるときは訪れるのか？

藤城清治さんの美しく繊細な影絵とともにクリスマスの奇跡をお楽しみください。特に、教会のステンドグラスが描かれたページは清らかで美しく圧巻です！

74期 M.F

※この本は本校図書館にありません。

「しあわせなモミの木」
 絵：ルース・ロビンス
 文：シャーロット・ソロトウ
 訳：みらいなな

町の落ち着いた建物が並ぶ美しい通りに一つだけ空き家があり、そこにクロケットさんというおじいさんが引っ越して来た。クロケットさんは粗末な身なりをしていた為、お金持ちだけが住むこの通りで“変わった人”として皆から避けられていた。そんなクロケットさんはクリスマス・イブの夕方、通りの角にある花屋さんで見栄えの悪い枯れ果てた一つの小さなモミの木と出会う…。生命の大切さを示した心温まる一冊です！

76期 T.O

「イエスさまがうまれた」
 絵：永田藤
 文：わきたあきこ

ある日の夜、皆が寝静まり、羊飼いがいつも通り羊の番をしだした頃、イエス様が生れました。これは、一番はじめのクリスマスの物語。背景や衣装がグラデーションになっているのが綺麗です。また、イエス様が生れたときに天使たちが歌いながら飛び回ったり、ラッパを吹いていたいたりしている場面や、羊飼いと羊と一緒にイエス様に会いに行くところが可愛いです！！

78期 K.K

